

忘れない あの大地震

平成12年10月6日、午後1時30分ごろに発生した鳥取県西部地震。日野町は震度6強を記録、町内全戸が被災するなど大きな被害に遭いました。まちでは、地震が発生した日を「日野町防災の日」と位置づけ、全住民を対象にした防災訓練を毎年行っています。今年も、より多くの人に防災意識を高めてもらいたいと、10月3日（日）に全町一斉防災訓練を行いました。

訓練当日は、全住民約2千人が避難訓練に参加。訓練後には各地区で各種防火訓練などが行われました。



防災訓練

地震の教訓をまちづくりに生かす

多くの住民が訓練に参加
防災意識を高める

防災訓練は、午前9時、鳥取県西部を震源とする地震が発生。日野町では震度6強を記録したという想定で行いました。

災害発生を告げるサイレン、状況を知らせる防災無線の合図で開始。内容は、各自治会ごとに決められている仮避難所に避難する初動体制の訓練。参加した住民約2千人は、自宅から安全な避難経路を確かめながら避難し、責任者に安否を報告しました。

まちも、訓練地震発生後、直ちに対策本部を設置。住民の安否確認や被害状況の情報収集、関係機関との体制の確認など災害時にすばやく対応できるように組織の充実を図りました。

訓練に参加した人たちは、地震から月日が流れ、防災への意識がおろそかになる。こうして訓練に参加することで、気を引き締めて取り組んでいかなければならないという気持ちになる」と話していました。



避難人員を各地区の責任者に報告（黒坂5区自治会）

**役割分担や連絡体制も明確に
充実する黒坂自主防災委員会**

地震災害が大きかった黒坂地区では、2年前に黒坂地区連合区内17自治会で結成した黒坂地区自主防災委員会（福田和也会長）が、被害を想定して訓練を行い、361世帯の619人が参加しました。

防災本部は町公民館駐車場に設置され、消火、避難・誘導、情報、救出